



第三十一号

令和3年度号 (10月10日発行)

「挨拶」



会長 中谷 基

(西高20回生)

つつじヶ丘同窓会関西支部

挨拶の枕詞に必ずコロナ禍が出てくる昨今ですが、思い起こせば、あの2020年2月のダイヤモンドプリンセス号という客船の集団感染から始まったコロナ禍で、すでに一年半以上が経っております。

関西圏の各地は幾度となく緊急事態宣言、まん延防止重点措置が発出されて行動を抑制されてしまいました、この関西つつじヶ丘同窓会の会長をお引き受けしたにもかかわらず、なにも活動することが出来ず心苦しく思っております。

今回の「つつじヶ丘だより」については休刊の案もありましたが、せめてこんな時期にこそ近況をお知らせしようと言う事で発刊することにいたしました。

母校の函館西高等学校も一昨年、函館稜北高等学校と統合して新設校として再出発しておりますが、函館西高等学校という名称が残り「つつじヶ丘同窓会」の継続も違和感なく続けられることは喜ばしい限

つつじヶ丘同窓会  
関西支部発行  
連絡先: 075-323-6633  
E-mail address:  
[office@td.kansai.ne.jp](mailto:office@td.kansai.ne.jp)  
URL:<http://td.kansai.sakura.ne.jp>

りです。

さて、私事 5年ほど前になりますが、久しぶりの函館を訪れて懐かしい同級生の店で飲んでいるときに数人の若者グループが来て話をし始めて、話が聞

こえてきた、その中の一人が西高の校長に赴任したと言っている、まあ若者と言っても自分たちから見ると若いだけで決して若くはないのだろうけれども、おそらく同級生同士での飲み会でしょうから自然と会話も若くなるわけで、。

思わず、こつちは西高の卒業生だけど、と話の中に入った、このグループは東高だったかと思う。それならさっそく明日にでも西高を訪問させてもらうと約束して、翌朝母校を訪問した。

懐かしい校舎に向かう坂道はそのまま、我々の頃とは違う近代的な校舎で戸惑ったが、校長室に案内されて緊張が走る、なにせあの時代は校長室など入ったことはなかったし、職員室に入るのも抵抗があった。昨夜の「若者」を前にしてそうそう会話も弾まない、

まして素面でもある。壁面には歴代の校長の写真が飾ってあって、当時の畑中学校長、長尾校長の写真だけ記憶にあつたが3年ほどで移動になるので他の先生の記憶はなかった。

昨年送られてきた同窓生の会員名簿を見ると、その赴任した校長(小松信夫氏)もすでに移動になっていた。

校長になると移動を余儀なくされるわけで、父が校長職を望まなかつた理由がわかるような気もする、なにせ父は私が中学を卒業するまで上川高校の教師であつて函館西高校に赴任したのは私が函館西高校

入学と同時にだったわけだから、おそらく移動を拒んでいたのだろうと推測する。

校長職というのは同じ学校に長くいることはできず2、3年で移動となるし、一般教員でも5年から10年が限度だと思う、毎年移動時期の朝刊に名前が掲載されて皆で知り合いの移動先を確認したものだった。

いわゆる表敬訪問を終えて校舎の横を上がり、グラウンドに登った(登ったという表現はピッタリか)そこから見ると景色は、変わらず美しいままでハリストス正教会、カトリック教会も懐かしい、高校の周りを散歩しながら自分の名前と同じ「基坂」の標識を確認して帰路についた。

10年ほど上川町で育ち実は函館の生活は高校時代の3年間だけであつたが、この3年間は多感の時期でもあつたから思い出深い青春時代であつた。クラブ

活動も二つを掛け持ちして、それなりに楽しい思い出が残っている。ですから、子供の頃の雪深い上川町よ



りも函館の方が「ふるさと」としての思いは強い気がします。

私がこの同窓会に初めて参加したのは確か京都のホテル日航で行われた時だと思いが、そこに伊達先生(当時の美術の先生)が参加され度肝を抜かれた記憶がある。

11回生の水島勝寿先輩の岳父ということを知ったのですが、お元気な姿に驚いた次第でした。最初で最後ではありませんが、まさか京都でお姿を拝見できると思ってもおらず、当時西高3年だった姉に報告するとビックリしておりました。

色々な事情で先生の就任期間が短いのは仕方ありませんが、昔は長くおられる先生もおられたので年代を超えて思い出が残っていくのは良いことだと思います。

私は大学、就職と函館を離れて関西人となったが、両親はその後函館に住んでいたから時々帰って、友人と会うのが楽しみだった、生まれは函館ではないため友人は高校に入ってから友人だけが、今でも仲良くしてくれるのはありがたい限りです。

若い同窓生の方々は、同窓会と言っても同期の仲間と集まるのが簡単で楽しいでしょうし、知らないお年寄りたちと集まって気を遣うのは苦手と感ずるでしょう。

ただ「同窓会適齢期」というのがあるかどうかはわかりませんが、年とともに何故か高校時代の先輩後輩の雰囲気懐かしさを感じるころがやってきます、そして昔歌った校歌や応援歌などを皆で歌って自分の人生の立ち位置を確認して次の日からの英気を養う、そういう会であり続けたいと思います。

これから皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

## 特別企画

『つつじヶ丘同窓会』関西支部(関西つつじヶ丘同窓会)あるいはその前進の同窓会に入会した頃』と題して、毎号3名から4名の会員に順次原稿を依頼して掲載するものです。本年度はその4回目です。本年度につき来年度以降も順次原稿執筆をお願いいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、原稿執筆要領は本会報のp4に示しております。ふるってご応募ください。

本号では、内山 みちる(西高3回生)、水島勝寿(西高11回生)の二名の方々の原稿を掲載いたしました。

## 『つつじヶ丘同窓会』関西支部(関西つつじヶ丘同窓会)あるいはその前進の同窓会に入会した頃』 その4

### 関西つつじヶ丘同窓会の思い出

内山 みちる (西高3回生)

昭和38・39年ごろから「西高卒業生の関西での集い」は石原正さん(西高5回生)が中心となって開催されていたと聞いていますが、この同窓会と高女の関西同窓会「すずらん会」との合同開催の「関西つつじヶ丘同窓会」(のちの「つつじヶ丘同窓会 関西支部」)の総会に初めて出席した時期は、昭和40年代の中ごろ(1970年ごろ)であったと記憶しています。そのきっかけは、夫の内山雅史が大阪万国博覧会開催の翌年(1971年、昭和46年)に大阪に転勤になり、この地に移り住んだため、参加したのを憶えております。夫、

雅史は高校2年生まで西高の同期生で、その後東京の高校に転校したため西高の卒業生ではないのですが関西支部に入会させていただきました。

その時の会長は、寺村初瀬さんで「すずらん会」の会長からこの合同の会でも会長に就任されておられました。私は西高3回生でしたので、高女の先輩方ともこの会でも何人かとも交流がありました。特に、高女37回生の桜井佳子先生(第3代目会長)は、小学校で先生をされていたこともあり、以後、親しくさせていただきました。また、この会では同期3回生の、富士昭一さんはじめ、山村勉さん、石原貞夫さん、田山道夫さんなどが出席されていて、われわれ夫婦とともに同期会に出席しているようなもので楽しい時間を過ごさせていただきました。

今ひとつの思い出は、恩師伊達幸太郎先生にお会いできたことです。伊達先生は、小学校の夏休み林間学校で色々な物語を教えて下さった先生でした。西校では美術をお習いしました。関西でお目にかかれるとは思っておりませんでしたので、これも懐かしい思い出のひとつです。

私の手もとに、平成8年(1996年)2月に撮影された大阪梅田の「八幸」での「函館を思う会」の記念写真があります。この会は当時桜井先生も大いに肩入れされておられた会で我々「つつじヶ丘同窓会関西支部」の会員も多数参加していました。この写真を見ると当時のことが昨日のように思い起こせます。

なお、才能豊かな石原正さんの鳥瞰図をもっと楽しみたかったです。早逝されそれが叶わなかったのが残念です。

平成8年(1996年)に夫の定年を機会に関西を離れて北海道に転居するまで結構この会への出席率は他の方々と比べても高かったと思っております。現在は函館に移り住んでおります。

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

### 同窓会の思ひで

水島勝壽 (西高11回生)

つつじヶ丘同窓会の総会に、初めて出席した時期については、定かではありません。出席するようになった切っ掛けは、予期せぬ縁で、妻則子の両親(伊達先生夫妻)と和泉市青葉台で同居した1975年(昭和50年)頃に、義父(伊達先生)から関西にも函館西高校の同窓会があるとの情報からと思われま

す。ただ、その頃は高度成長期のエコノミックアニマルと言われた時代で、休日返上で仕事に行くのがカッコイイとカンチガイしており、さらに4年半程名古屋へ単身赴任していたため欠席が多かったと思います。富士さんが会長になられた、1995年頃以降から、故郷函館を懐かしむ心境になったのか、出席するようになったと思います。

当時副会長の橋本さんから、演歌歌手の北島三郎さんと同期の話や西高が甲子園へ出場した時の熱闘などを胸躍らせて拝聴しました。

ところで、関西在住55年間で最高に感動した事は、優勝旗が初めて津軽海峡を渡るようになった、2004年(平成16年)8月22日の狂喜乱舞!と思います。

第86回夏の全国高校野球大会、厳寒の南北海道代表「駒大苫小牧高校」と春夏連覇を目指す愛媛県代表「済美高校」との決勝戦!「白河の関」(福島県)以北の高校が準々決勝で横浜高校を、準決勝で東海大甲府高校を破り、決勝戦に登場するなど、まさに奇蹟! 生きているうちに実現されるなど想像すらできなかった。

午後1時プレイボール。試合は壮烈な打撃戦となり、逆転につぐ逆転!そしてついに空前絶後の感動の時をむかえる! 先攻の済美19安打10得点、駒大苫小牧20安打13得点、9回表2アウト走者1・3塁、

済美の打者は4番強打の鶴久森選手、駒大苫小牧の鈴木投手渾身の一球、打球は空高く打ち上げられたが、放物線を描いて内野ショートグラブにおさまった。

その瞬間、ウオー! 5万2千の大観衆の歓声に球場全体が包まれ、我々も見知らぬ人々と手を取り合い肩を抱き合い、涙が頬を伝わるのも構わず絶叫また絶叫!バンザイ!バンザイ!バンザイ!

一生忘れ得ぬ瞬間であった。  
(あの田中将大投手は1年生でスタンドで応援、翌年優勝、翌翌年準優勝に貢献し後にプロの楽天・ヤンキースなどで大活躍)

### 随想

#### コロナウイルス雑観

中村 浩 (西高9回生)

生物の増殖単位は遺伝子を持った細胞であるが、自然界には細胞の形を持たない増殖単位も存在する。それらは細胞に寄生し、その遺伝子複製系を利用してなければ増殖できない。その一つがウイルスである。ウイルスはDNAまたはRNAからなる遺伝子が、おもに数種類のタンパク質でできた殻を被った構造をしている。大部分は直径にして通常のバクテリア(細菌)の100分の1から5分の1の大きさで、種類によって感染する細胞のタイプが異なるのが普通である。現在問題となっている新型コロナウイルスはRNA型のウイルスである。

14世紀に大流行し死者は1億人ともいわれるペストによる「黒死病」。第1次世界大戦の最中に起き、数千万人の命を奪ったインフルエンザの「スペイン風邪」。人類が免疫を持たない病原体は過去にも爆発的に感

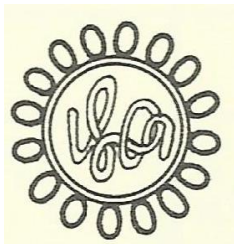
染を広げ、社会の姿すら変えてきた。

コロナウイルスも過去に新種が登場し、脅威となった。2002〜03年に流行した重症急性呼吸器症候群(SARS)はアジアなどで8千人以上が感染。12年には中東で中東呼吸器症候群(MERS)が発生した。ただ、SARSが発症すれば重症化し、患者をすぐに隔離することで封じ込めに成功し爆発的な感染拡大には至らなかった。

一方、新型コロナウイルスは感染が拡大しやすい特徴がある。感染しても発症しなかったり、発症後も多くが風邪の症状で済んだりするため、感染に気が付きにくい。発症直後からウイルスを他人にうつしやすく、無症状でもウイルスをうつす可能性が示唆されている。また、罹患して完治した後、後遺症が残る場合があり問題となっている。

免疫の獲得のための有効なワクチン開発は必須である。特にウイルス株の変異が早い場合には対処しにくい場合も予想される。

このコロナウイルス禍で働き方改革や社会福祉政策の見直しなどが叫ばれ、社会が大きく変化せざるを得ないことは明らかである。これから先の社会の変革をこの目で確かめたい。しかし、それまで我々の年代の老人が生き延びられるかは問題である。



生化学辞典 東京化学同人  
1984年発行 p1429より引用

令和 2 年度収支会計報告		自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日	
収 入	金額	支 出	金額
令和 1 年度からの繰越金	259,975	幹事宛通信費 礼状 郵送料など (計14通)	1,630
同窓会本部からの補助金	30,000	レンタルサーバー ライト サービス利用料	1,901
受取利子	2	B5封筒(会誌2つ折りで送付) 100枚	635
		プリンターインク Canon 380XL 黒	1,914
		会誌「つつじヶ丘だより」 600部 印刷代	9,900
		会誌発送料 58通 (定型 17通、定型外 41通) @ 84x17, @ 140x41	7,168
		会誌送料 同窓会本部、東京・札幌支部 レターパックライト計4通: @ 370 x 4	1,480
		令和 3 年度への繰越金	265,349
収入 計	289,977	支出 計	289,977

## 本会記事

### 《令和 2 年度は総会の開催されない年度》

昨年度、令和 2 年(2020 年)度は 2 年毎の総会・懇親会の開催されない年度に当たっていた。2 年前の総会で新会長を中谷 基さん(西高 20 回生)に引き受けて頂き、新しい会長のもとで会の発展が託された。

しかしこの長引くコロナウイルス禍で、この秋の令和 3 年(2021 年)度の総会・懇親会の開催は出来ない状況下にある。

会の運営に関しては幹事会をスリムにし、中谷新会長を中心に新体制で臨むことが提案されている。若し新会員の入会が会の発展の鍵をにぎっている。

### 《幹事会より》

令和 2 年(2020 年)4 月から令和 3 年(2021 年)3 月までの会の主な活動は会誌「つつじヶ丘だより 第 30 号」(10 月 10 日発行)の編集・発行・送付を行ったことである。送付先は関西支部会員の他、同窓会本部、東京支部、札幌支部である。本部宛には、その年度の卒業生への配布部数も含まれている。

### 「追記」

例年であれば、1 年間に少なくとも 3・4 回は幹事会が開催され、総会の無い年には近隣へのピクニックなどの行事などが催されるのであるが、コロナウイルス感染症拡大のためすべて中止となっている。一刻も早くこのコロナウイルス禍の終焉を願っている。

## 編集後記

特別企画「『つつじヶ丘同窓会』関西支部、関西つつじヶ丘同窓会」あるいはその前進の同窓会に入会した

頃』も、今年で 4 年目に入った。会員の皆様には、順次執筆を依頼するので、よろしく。その他、随想などの投稿をお待ちしている。

中谷 基新会長の新体制のもとで関西支部も新たな発展をと考えているうちに、コロナウイルス禍騒ぎで連絡のための幹事会も持てない状況である。この会誌の編集は取りあえず、中村、小林、水島が担当した。

シリーズで連載中の『つつじヶ丘同窓会』関西支部(関西つつじヶ丘同窓会)に入会した頃』にぜひ応募ください。

執筆要領は、左記に示しました。

連絡先: E-mail: hio@osaka.zaq.jp

または電話 06・68552・8274 または携帯 090・62625・8274

原稿執筆要領:

- ① 「関西つつじヶ丘同窓会」の総会に初めて出席した時期はいつ頃ですか。具体的にお書き下さい。(昭和・年、昭和・年頃、など。西暦でもかまいません)
- ② そのきっかけは、どんなことでしたか。
- ③ 会長は、どなたでしたか。
- ④ その頃の思い出をお書き下さい。(この会に出席した時の感想、思い出話など、何でも結構です) 右記の質問に沿って、箇条書きにしたもの、あるいは、全体をまとめた文章でも結構です。文字数は問いません。